

4年ぶりのオールナイト開催決定！六本木の街を彩るアートの饗宴 「六本木アートナイト2023」全プログラムも発表

テーマ：都市のいきもの図鑑

日時：2023年5月27日(土)10:00～28日(日)18:00

コアタイム：5月27日(土)18:00～28日(日)6:00

メインプログラム・アーティストは、栗林隆+Cinema Caravan、鴻池朋子
約45組のアーティストが繰り広げる約70のプログラム
六本木の街に白い翼が舞う。Close-Act Theatreによるダイナミックなパフォーマンスも決定！

六本木アートナイト実行委員会は、六本木の街を舞台にした一夜限りのアートの饗宴「六本木アートナイト2023」を2023年5月27日(土)～5月28日(日)の2日間にわたり、4年ぶりのオールナイトで開催いたします。

メインプログラム・アーティストに栗林隆+Cinema Caravan、鴻池朋子を迎え「都市のいきもの図鑑」をテーマに六本木の街をフィールドにさまざまな作品を展開いたします。開催にあたり、「六本木アートナイト2023」のプログラムが決定いたしました。



「六本木アートナイト2023」メインビジュアル
デザイン：groovisions



Close-Act Theatre (White Wings) ©Bert Holtmann

「六本木アートナイト2023」では、メインプログラム・アーティストを含め、気鋭のアーティストら約45組による約70のプログラムを展開します。なかでも国際的パフォーマンスカンパニーClose-Act Theatre(クローズアクトシアター)による《White Wings(ホワイトウイングス)》は、リアル開催ならではの体感型プログラムとなり、巨大な白い翼を纏ったキャラクターたちが、音楽と光の演出とともにダイナミックなパフォーマンスを六本木各所で繰り広げます。

そのほか美術館をはじめとする文化施設、大型複合施設、商店街が集積する六本木の街全域をフィールドに、ペインティングやインスタレーション、音楽、パフォーマンス、映像、トークなど、自然界の大いなる営みや循環という視点から、都市に生きる命を想像することで意識していなかった多様な繋がりを感じられるプログラムとなっています。

作品展示に加え、今年もデジタルを取り入れることで、さらに充実したコンテンツを展開し、社会に於けるアートの更なる可能性を発信します。驚きと感動、出会いに満ちたアートで彩られる六本木を、ぜひお楽しみください。

※開催に先駆けて4/22(土)より展示を行う、先行展示プログラムがあります。

※各プログラム概要は、次頁以降をご参照ください。なお本リリース内容は2023年4月時点のものであり、今後変更になる場合があります。

■ メインプログラム

栗林隆+Cinema Caravan、鴻池朋子の2組が六本木の街で繰り広げる大型作品

メインプログラム・アーティストの栗林隆 +Cinema Caravan、鴻池朋子は「都市のいきもの図鑑」をテーマに大型作品を展開します。

東西統合から間もないドイツに滞在した活動初期の頃から「境界」をテーマに大がかりなインスタレーションを中心に多様な作品を発表している栗林隆。その栗林と2009年から共に活動を始めた、写真家、大工、料理人など多様なメンバーによって構成されるコレクティブ Cinema Caravan。六本木ヒルズアリーナでは、アートエネルギーを船に載せ、世界中に届ける《Tanker Project》を出現させます。

絵画、彫刻、パフォーマンスなど様々なメディアと、旅によるサイトスペシフィックな表現で芸術の根源的な問い直しを続ける鴻池朋子。屋外展示で話題を呼んだ《皮トンビ》が日本を横断しながら東京ミッドタウンに降り立ちます。国立新美術館では《皮トンビ》と併せて《狼ベンチ》が展示されるなど、動物をモチーフとした作品が放たれます。

- 展示場所：六本木ヒルズアリーナ、東京ミッドタウン、国立新美術館
- 展示期間：国立新美術館：5/10(水)～5/28(日) 10:00～18:00 ※先行展示
※毎週金・土曜日は 10:00～20:00 ※休館日：毎週火曜日
5/27(土) 10:00～22:00、5/28(日) 10:00～18:00
※野外作品は、5/27(土)22:00以降も観覧可
六本木ヒルズアリーナ、東京ミッドタウン：5/27(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 参加料：無料



栗林隆 + Cinema Caravan



鴻池朋子

<六本木ヒルズアリーナ 展示予定作品：栗林隆 + Cinema Caravan>



《Tanker Project》イメージ

<東京ミッドタウン 展示予定作品：鴻池朋子>



《高松一越前一静岡一六本木皮トンビ》
2022年
約W12×H5.5m
牛革、水性塗料、クレヨン



《大島皮トンビ》
2019年
約W12×H4m
牛革、水性塗料、クレヨン

<国立新美術館 展示予定作品：鴻池朋子>



《武蔵野皮トンビ》
2021年
約W24×H10m
牛革、水性塗料、クレヨン
角川文化振興財団所蔵

© 2021 Tomoko Konoike Courtesy of Kadokawa Culture Museum



《物語るテーブルランナー》
2014年～
各々 30×45cm
布地、刺繍糸、綿、ミクストメディア



《狼ベンチ》
2022年
W1.9×D0.8×H1.1m
FRP、水性塗料

※ほか《アースベイビー》、《陸にあがる》を展示予定。

■ メインプログラム



志津野雷 + Play with the Earth Orchestra 《Play with the Earth》

Cinema Caravan代表志津野雷が世界を旅して切り取った記録を紡いだ映像作品「Play with the Earth」。旅を重ねるごとに変化するエンディングなきロードムービーに合わせて、ライブ公演を行います。

- 日時：5/27(土) 18:50 ～ 20:00
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料



Otoji+Ray 《Otoji+Rayコンサート》

ベース"Otoji" とバイオリン"Ray"のDuo によるコンサート。オリジナルな弦の世界観とシンプルな編成を生かし、オールドジャズ・クラシック・ジブシー音楽・民謡・エレクトリック等の要素を取り入れたオリジナル曲による公演を行います。

- 日時：5/28(日) 12:00 ～ ※約1時間
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料



OKI+MAREWREW 《OKI+MAREWREW コン서트》

旭川アイヌのOKIと、北海道や樺太に伝わる新旧さまざまなアイヌの伝統歌「ウポポ」の再生と伝承をテーマに活動する女性ヴォーカルグループMAREWREWによるライブコンサート。「アイヌの伝統はアイヌ自身が発展させ楽しむ」をモットーに生み出される斬新なサウンドをお楽しみください。

- 日時：5/28(日) 16:00 ～ ※約1時間
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料

このほか、川村亘平斎(影絵師・音楽家)による影絵のパフォーマンス、Masaya Fantasia、Wassupski、Mikey Varot (JAZZY SPORT)によるDJライブ、曾我大穂による即興音楽コンサートなど、《タンカープロジェクト》のエネルギーとなるプログラムを計画しております。公式ウェブサイトにて、随時情報を更新いたします。

■ 海外招聘パフォーマンス



©Bert Holtmann

Close-Act Theatre (クローズアクトシアター)

《White Wings (ホワイトウイングス)》

Close-Act Theatreはオランダを拠点とし1991年に設立した世界中で活躍するパフォーマンスカンパニー。視覚的な創作にこだわったスタイルが特徴です。《White Wings》は、白い翼を纏った幻想的なキャラクターが優雅にウォーキングし観客を魅了します。スティルツを身につけたパフォーマーとミュージシャン、センターステージには歌手。その大きな翼は、観客の頭上を漂い、魔法をかけ、異次元へと誘います。パレードは壮大なクライマックスを迎え、やがて魔法がとけるように幻影は消えていきます。

- 日時：5/27(土) ①16:00 ～ (公開リハーサル)、②18:30 ～、③20:30 ～ ※各約20分間
5/28(日) ①14:00 ～、②16:00 ～、③17:45 ～ ※各約20分間
- 場所：5/27(土)
①六本木ヒルズアリーナ、②六本木ヒルズアリーナ、③東京ミッドタウン プラザ1階
5/28(日)
①六本木ヒルズアリーナ、②東京ミッドタウン プラザ1階、③六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料

■ 六本木ヒルズ



エマニュエル・ムホー
100 colors no.43「100色の記憶」、2023年（イメージ）

エマニュエル・ムホー 《100 colors no.43「100色の記憶」》

100色で彩られた層が織りなす、記憶を辿るインスタレーション。小さな数字が幾重にも重なり合い、年号が浮かび上がります。西暦が刻まれた100色の層は、奥に流れるにつれて年月が遡る「記憶」を視覚化します。一番手前の層は2023年現在の新たな記憶を「白」で表現し、100色のグラデーションが過去の時の流れを演出します。この色とりどりの記憶の空間に人々が集まり、思いを馳せる場所となりますように。

- 日時：4/22(土)～5/26(金)、5/27(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：六本木ヒルズ 66プラザ
- 参加料：無料

先行展示プログラム



毛布で覆われた空間を製作中

江頭誠 《DXもふもふ毛布ドリームハウス》

一人暮らしの部屋に友人が来たとき、実家から持ってきた毛布をダサイと言われ、今まで気に留めていなかったロココ調の花柄が急に恥ずかしく、意識せざるを得ないものになり、作品に使用するようになりました。昭和43年頃から日本で生まれた花柄毛布は、憧れの西洋の高級感を演出することによって当時の人々の日本の文化にグラデーションのように溶け込み共存してきました。今回は時代と共に変化していく憧れの生活様式を表現しているリカちゃんハウスをモチーフに、かつての憧れの西洋の高級感を演出した花柄毛布で憧れのドリームハウスを作ります。

- 日時：5/20(土)～5/26(金)、5/27(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：六本木ヒルズ ウエストウォーク2階
- 参加料：無料

先行展示プログラム



《SHUKU》イメージ図

大小島真木 + Maquis 《SHUKU》

直径1メートル超のミラー貼りの正十二面体オブジェを中心に、ガラス造形、鉄工、植物、LED照明、音響などを交えて展開するミクソメディアのインスタレーション。本作では、日本各地に伝わる謎の古神である“シユク”の現代的な憑座として、自然物と人工物、有機物と無機物、人間と他種が境なく混じり合った「サイボーグとしての御神体」が表現されています。

- 日時：5/20(土)～5/26(金)、5/27(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：六本木ヒルズ ウエストウォーク北
- 参加料：無料

先行展示プログラム



特定非営利活動法人 虹色の風 《Passion-内在する情熱》

都会ではあらゆる物が混在し、喧騒の中に絶妙なバランスを保ちながら溶け込んでいます。でも、そんな街にも確かに季節は巡り、全ての生き物たちは命の波動を刻みながら、見過ごしてはいけない大切なドラマを日々繰り広げているのです。今展「Passion-内在する情熱」では目まぐるしい日常の中で、揺り動かされる感情を心の内に秘め、自分ではどうにもならないこと、到底超えられないものに抗いながらも真摯に向き合い制作し続けている作家たちの作品を紹介します。

- 日時：5/23(火)～5/26(金) 11:00～23:00、5/27(土) 11:00～5/28(日) 6:00、11:00～18:00
- 場所：六本木ヒルズ ヒルズカフェ/スペース
- 参加料：無料

先行展示プログラム



San Jin(中国)によるデザイン

Mirko Ilić / 日本: Aya Komboo, Matthew Waldman, 慶應大学大学院メディアデザイン研究科SAMCARA Lab. 《トランス・ポスター展 2023》

「カラーレンズはもう古い!」世界40カ国、150回以上開催され、地球上で拡散を続けるポスター展が日本初上陸。アイラブNYのミルトン・グレイザーを始め、国際色豊かなアーティスト200名以上による「トランス」をテーマにした多彩な作品が集結します。今回はその一部をご紹介します!国内ではLGBTQやジェンダーバランスの不均衡が目される一方、人種、国籍、年齢、宗教など、本来あらゆる多様性が世界中に存在します。本展は回を重ねながら、色眼鏡をかけることのない自由な対話の機会を増やしていくことを目的としています。

- 日時：5/23(火)～5/26(金)、5/27(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：六本木ヒルズ ノースタワー アートボード
- 参加料：無料

先行展示プログラム

■ 六本木ヒルズ



《熱帯複眼》動物故事系列
シングルチャンネル映像、4K、カラー、サウンド 12.2
2020年～2022年
16分
©ZHANG XU Zhan
Courtesy: projectfulfill

ジャン・シュウ・ジャン(張徐展)《熱帯複眼 -動物故事系列-》

本作は、台湾の民族パレード「Yi Zhen」のための衣装や台湾の祭事用衣装、東南アジアに伝わるマメジカワニを騙して川を渡る民話、各国のそれに類似した物語などが元になっており、半分が人間で半分がネズミや狐のシャーマンダンサーが登場します。本作は、ハエの複眼で世界を視るように、異なる国の相互に関連する物語を同時に提示し、異なる立場で同じことを体験すること、固有の文化やアイデンティティについて考えさせ、普遍的な寓意体験とローカルな寓意体験のつながりなどを提示してくれます。

- 日時：5/27日(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：六本木ヒルズ ノースタワー前
- 参加料：無料



六本木ヒルズ メトロハット イメージ

デイジーバルーン 《乱流》

スティック状のラバーバルーンを平面に編み込み歪ませることで、変動性が高く、不確実で複雑、さらに曖昧さを含んだ現代社会と自然環境の対立構造を暗喩として表現しています。不正義や不条理に静かに向き合い、内なる葛藤と和解して、変幻自在に自分自身を変化させていく、予測不能な乱流のような世界で柔軟に生きる希望を込めた作品です。

- 日時：5/27日(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：六本木ヒルズ メトロハット
- 参加料：無料



Noism2特別公演2018『ゾーン』
photo: Noriki Matsuzaki

榎田祥光《歓喜》

これからの時代を引っ張っていく若手舞踊家達総勢20名以上の大群舞で交響曲第9番/第4楽章：歓喜の歌にのせ、理想と現実の世界を20分の作品を通して表現します。
《歓喜》という作品は理想と現実の間で翻弄されながらも必死に生き前に進んでいく人々を描いており、混沌、混乱、歓喜という3つに分かれた構成になっています。混沌と混乱は現実、歓喜は理想として対比させており、特に歓喜のシーンは人と人との繋がりや助け合い、現実の世界に押し潰されそうになりながらも理想を求め必死に努力し続ける姿を表現した作品です。

- 日時：5/27(土) 22:30 ～、5/28(日) 15:00 ～ ※各約30分間
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料

オープンコール・プロジェクト採択作品



クラシックなラジオ体操
撮影：加藤甫

インビジブル×日本フィルハーモニー交響楽団《クラシックなラジオ体操》

「クラシックなラジオ体操」が、ついに六本木アートナイト2023で復活します！この日のために厳選された楽曲を、日本フィルハーモニー交響楽団が生演奏。朝の一日を爽やかにスタートする「ラジオ体操」とともに、ここでしか味わえない健康的で豊かな時間をお過ごしください。身も心も健やかな朝を迎えましょう！

- 日時：5/28(日) 5:30 ～ ※約30分間
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料



撮影：鰐部春雄

《六本木ヒルズ・森美術館 まちと美術館のプログラム「紡舞プロジェクト」》

2018年に六本木ヒルズ15周年を記念して始まった参加型アートプロジェクト「つむぐプロジェクト」。今年は「紡舞プロジェクト」として「都市と人の成熟」をテーマに身体を使ったコミュニケーションやメッセージの伝え方を振付家、ダンサーの森下真樹さんと考え活動してきました。コロナ禍を経て、言葉だけではないコミュニケーションに今一度目を向け、活動から生み出された身体表現をメンバーが森下さんとともにアリーナで繰り広げます。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料

■ 六本木ヒルズ



東京シティビュー

東京の中心に位置する、海拔250メートルの屋内展望台。東京タワー、東京スカイツリーなど、首都東京のランドマークはもちろん、天気の良い時は富士山までもが一望でき、「都市という名のアート」を鑑賞することができます。

- 時間：10:00～22:00（最終入館 21:00）
※「六本木アートナイト 2023」開催に伴い、5/27(土)は翌6:00まで開館延長
- 場所：東京シティビュー（六本木ヒルズ森タワー 52階）
- 入館料：一般 2,000 円（平日、窓口）ほか、詳細はウェブサイトにてご確認ください。
※「ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築」を開催中。



ヘザウィック・スタジオ《リトル・アイランド》
2021年
ニューヨーク
撮影：ティモシー・シェンク

ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築

ロンドンを拠点に世界各地で革新的なプロジェクトを手掛けるデザイン集団、ヘザウィック・スタジオ。今秋開業する麻布台ヒルズの低層部を含む、主要プロジェクト28件を総覧する日本で初めての展覧会です。人間の心を動かす優しさ、美しさ、知的な興奮、そして共感をもたらす建築とは何かを探ります。主催：森美術館

- 日時：3/17(金)～6/4(日) 10:00～22:00（最終入館 21:00）
※「六本木アートナイト 2023」開催に伴い、5/27(土)は翌6:00まで開館延長
- 場所：東京シティビュー（六本木ヒルズ森タワー 52階）
- 入館料：一般 2,000 円（平日、窓口）ほか、詳細はウェブサイトにてご確認ください。



井上裕起《salaMandala / BOADER》

salamander(山椒魚)をモチーフに、「進化」をテーマとして、現代の世相をシニカルかつユーモラスに表現する現代美術家、井上裕起。今展では、今なお世界中に蔓延している閉塞感や危機感を、境界線という仕切りに隔てられる事によって生じた、内と外という空間に目をむけて制作された作品を展観する。

- 日時：5/19(金)～6/11(日) 12:00～20:00
- 場所：六本木ヒルズA/Dギャラリー（六本木ヒルズ ウェストウォーク3階）
- 入館料：無料

■ 森美術館



宮島達男
《Innumerable Life/Buddha CCIJ0-01》
2018年
所蔵：森美術館（東京）
撮影：表 恒匡
画像提供：Lisson Gallery

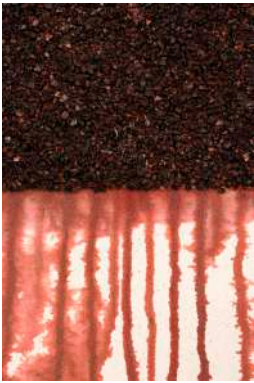
森美術館開館20周年記念展

ワールド・クラスルーム：現代アートの国語・算数・理科・社会

現代アートを美術や図画工作といった教科の枠組みから解き放ち、「国語」、「社会」、「哲学」、「算数」、「理科」、「音楽」、「体育」、「総合」の8つの科目別のセクションで紹介。50組を超えるアーティストの作品を通して未知の世界に出会い、学ぶ、まさしく美術館がすべての人に開かれた「世界を学ぶ教室」となる展覧会です。

- 日時：4/19(水)～9/24(日) 10:00～22:00（最終入館 21:30）
※火曜日のみ17:00まで（最終入館 16:30） ※会期中無休
※「六本木アートナイト 2023」開催に伴い、5/27(土)は翌6:00まで開館延長
- 場所：森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53階）
- 入館料：一般 2,000 円（平日、窓口）ほか、詳細はウェブサイトにてご確認ください。

■ 東京ミッドタウン



dyeing red #1
photo: Taihei Soejima

井原宏路《dyeing 500》

カイガラムシや蚕の糞を密集させ、それらに水をかけ、流れ出た色素で絹を染める。ムシも糞も絹も生命から生まれる。これらの素材は、実は着色料や染料として食料や衣類に用いられ、我々の生活に密かに馴染む色の起源でもある。東京ミッドタウン内の天井から流れる噴水に作品のイメージを重ねるとともに、生命から色を染み出す行為から、都市の生活では意識しない“自然”と“色の起源”を遡る。

- 日時：5/27(土) 10:00 ~ 5/28(日) 18:00
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア1階
- 参加料：無料



book (ing) No.12
photo: Taihei Soejima

井原宏路《book (ing)》

虫に喰われて欠損した本たち。それらは本であり、虫にとっては食物であり、食べ残しであり、時に彼らの住処でもあった。それらを生物が削った彫刻として捉え、保存修復で使用する薬品で書籍の質感を保たせながら硬め、彫刻のように自立させる。小さな虫たちの生々しい息遣いから生まれたこれらの形は、スケールを変えると都市を空から眺める地図のようにも映る。消失と現存、虫と人間、スケールを横断しながら生物の生きた証を捉えなおす。

- 日時：5/27(土) 10:00 ~ 5/28(日) 18:00
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア1階 Bonpoint前
- 参加料：無料



太湯雅晴《Maison de ROPONGI》

六本木の街に住む、小さな動物や昆虫たちの家を造りました。居心地良く過ごせるように、室内にはキッチンや寝室、浴室にテレビ等を設けてあります。家は東京ミッドタウンエリア内に点在しているので、動物たちの暮らしを覗いてみてください。運が良ければ彼らの様子を見ることができるともかもしれません。

- 日時：5/27(土) 10:00 ~ 5/28(日) 18:00
※一部の作品は11:00 ~ 21:00まで
- 場所：東京ミッドタウン各所
- 参加料：無料

中田愛美里、片貝葉月、studio SHOKO NARITA、馬蹴れんな、井村一登、平野利樹 《Street Museum 2023》

東京ミッドタウンでは、2008年より毎年、若手アーティストを応援するコンペ「TOKYO MIDTOWN AWARD」を実施しています。Street Museumでは、昨年の本アワードアートコンペを受賞した6組のアーティストが新作を発表します。それぞれの作家が、自己や自身の関心事を徹底して探究し生み出された作品を通して、想像力や感覚をひろげてみませんか？

- 日時：3/15(水) ~ 5/26(金) 6:30 ~ 翌0:30、
5/27(土) 10:00 ~ 5/28(日) 18:00
- 場所：東京ミッドタウン プラザB1階 メトロアベニュー
- 参加料：無料

先行展示プログラム

Street Museum
Street Museum



35° 39'55"Nの旅 2022年

片貝葉月 Street Art Performances

《The Star オリジナルメッセージカード ワークショップ》

Street Museum 2023 にて展示中の作品「The Star」に関連したワークショップを開催します。緯度と北極星をテーマにしたオリジナルメッセージカードづくりを通して、お友達やご家族にお手紙を送ってませんか？人との繋がりに想いを馳せながら、楽しいひとときをお過ごしください。

- 日時：5/27(土) 14:00 ~ 16:00、19:00 ~ 21:30
※所要時間：15 ~ 30分程度 ※材料が無くなり次第終了
- 場所：東京ミッドタウン プラザB1階 メトロアベニュー
- 定員：入れ替え制/最大同時2組まで(合計6名まで)、各組終了次第順次入れ替え
※各回25名まで

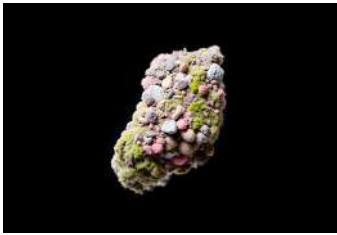
■ 東京ミッドタウン



馬蹴れんな Street Art Performances 《モラトリアムのストレス》

人前に出ることのストレス。描くことのストレス。将来を考えることのストレス。生活が乱れないよう努めることのストレス。妙に自罰的になったり、楽観的になったり、他者から見たら些細すぎる機微の全てが私にとってはストレスであり、同時にエネルギーなのである。

- 日時：5/27(土) 18:00～21:00、5/28(日) 15:00～18:00
- 場所：東京ミッドタウン プラザB1階
- 参加料：無料



平野利樹 Street Art Performances 《(Un)specificity of Realities》

Street Museum 2023 に展示中の「(Un)specific Rock - Ontology of Holes -」を元に、建築・アート・哲学などのさまざまな領域における諸問題について、作家自身と建築家や哲学者によるディスカッションを行います。

ゲスト：飯盛元章(哲学者・中央大学兼任講師) 他

- 日時：5/27(土) 22:00～23:30
- 場所：東京ミッドタウン プラザB1階
- 参加料：無料(事前申込不要)



studio SHOKO NARITA Street Art Performances 《空の装置》

空を正確に記録し残すことは難しい。写真に撮っても肉眼で見た空とはどこか違うでしょう。このワークショップでは、空が赤や青に発色して見える現象(レイリー散乱)と同じ原理で作られた特殊なガラスを使って、空の光の色を作っていきます。ガラス、光、鏡の素材を自由に再構成し、一人一人の記憶に結びつく自分だけの空を探す体験をして頂けたらと思います。

- 日時：5/27(土) 14:00～18:00、19:00～21:00、5/28(日) 14:00～18:00
- 場所：東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン ※雨天の場合、実施場所が変更となります
- 定員：1度に4名程度
- 参加料：無料(事前申込不要)



撮影：北川姉妹

のばなしコン《複々》

労働や消費といった活動を行い、社会的なシステムの中に生きる存在でありながら、そこから逸脱した野生の状態にもなることができる「人間」。それらが共存する生き物としての生態を展示するパフォーマンスです。大都会を四足で駆け巡る遊びをどこまで保てるのか、ぜひ目撃してください。

- 日時：5/27(土) 17:00～20:00
- 場所：東京ミッドタウン プラザ1階
- 参加料：無料



"/ 72" 2017 oil on canvas
2273x1620(mm)

Yugo Kohroggi 《/72》

例えば「色」について考える時、汚い色もきれいな色も実は存在しないように、そこにあるのは汚くみえる、或いはきれいにみえる、色彩の関係性のみです。基準が定まることで、今まで気づかなかったものが見えるようになることがあります。一方で、感情のように測ることのできない存在もまた、とても尊いものに思えます。こうした何気ない日常の機微が、僕とこの世界との関わりを支えています。

- 日時：5/3(水)～6/6(火) 11:00～20:00
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア1階 ISETAN SALONE
- 参加料：無料

同時開催プログラム

■ サントリー美術館



藍色ちろり 日本 18世紀
サントリー美術館 【全期間展示】

吹きガラス 妙なるかたち、技の妙

熔けた熱いガラスに息を吹き込んで器物を成形する吹きガラス。ガラスという素材の性質を活かした吹きガラスの登場は、ガラスならではの〈かたち〉の誕生でもありました。本展では、吹きガラスならではの表現を生み出した作り手の〈技〉を切り口に、古今東西の特色ある吹きガラス作品をご覧ください。あわせて、現代のガラス作家らによる技法研究の成果をご紹介します、かつての名もなき吹きガラス職人たちの創意工夫に迫ります。

- 日時：4/22(土)～6/25(日) 10:00～18:00、金・土および5/2(火)～5/4(木)は、10:00～20:00
(最終入館は閉館30分前)
※休館日：毎週火曜日 ※ただし、5/2(火)は開館、6/20(火)は18時まで閉館
- 場所：サントリー美術館 展示室
- 入館料：一般 1,500円、大学・高校生 1,000円、中学生以下無料



提供：公益財団法人淡路人形協会

淡路人形座 人形浄瑠璃公演「戎舞」

淡路人形座(※)は兵庫県南あわじ市に約500年前から伝わっている淡路人形浄瑠璃を継承しており、今回はその代表的な演目「戎舞」を上演します。更にアートナイト特別企画として、現地で催されているバックステージツアーの映像上映やヴァイオリニスト益子侑の楽曲に合わせて人形が舞う特別公演も実施します。力強い義太夫の語り、腹の底に響く三味線の音色、豪快さの中に繊細さが光る人形の動き、その一つ一つの魅力をお楽しみください。※第19回サントリー地域文化賞受賞

- 日時：5/27(土) 13:30～14:15、15:30～16:15、18:00～18:45
- 場所：サントリー美術館 6階ホール
- 定員：各回75名
- 参加料：無料 ※別途要入館料(事前申込優先)



©渡辺真太郎

「吹きガラス」展関連映像上映

開催中の展覧会「吹きガラス 妙なるかたち、技の妙」に関連して、江戸時代の《藍色ちろり》の再現制作プロジェクトに携わった東京藝術大学ガラス造形研究室の皆さんによるトークのダイジェスト映像などを上映します。展覧会とあわせてお楽しみください。

- 日時：5/27(土) 11:00～20:00、5/28(日) 11:00～18:00
- 場所：サントリー美術館 1階レクチャールーム
- 参加料：無料

■ 21_21 DESIGN SIGHT



The Original

本展では、世の中に深く影響を与えるデザインを「The Original」と定義し、紹介します。会場では、デザインの第一線で活躍する3名—土田貴宏、深澤直人、田代かおるによって選ばれた、家具、食器からテキスタイルや玩具など約150点のプロダクトを展示します。その魅力を伝える写真やテキストなどを通して、「The Original」の背景にある考え方をあますところなく紹介します。

- 日時：3/3(金)～6/25(日) 10:00～19:00(最終入場18:30) ※休館日：毎週火曜日
5/27(土) 10:00～22:00(最終入場21:30)
- 場所：21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 1&2
- 入館料：一般1,400円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料

土田貴宏によるギャラリーツアー

本展をより深く理解したい方のために、本展ディレクターの土田貴宏によるギャラリーツアーを開催します。「The Original」の考え方から、展示プロダクトの詳細と、その独創性と根源的な魅力について、幅広く紹介します。本ツアーは、事前予約制にて開催します。申し込み方法の詳細は、ウェブサイトにて掲載予定です。

- 日時：5/28(日) 11:00～12:00
- 場所：21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 1&2
- 参加料：無料 ※別途要入館料(事前予約制)



撮影：木奥恵三



うらあやか《蜂と関わろうとする身振り(適正な関係は壊されてしまった..)》

人間が熊蜂と関わりを持つようとする、その様子がダンスのように記録された連続写真を、ビルボード広告の形式で屋外展示します。近づきあう人と蜂の身体は、それぞれが嫌がってかわしあったり、かわした結果同じ方向へ動いたり、時にバランスを崩したりします。他者と適正な距離を保とうとするとき、互いが触発しあうことで生じる関係性について、国立新美術館の過去と現在を象徴する2つの建築のあいだで問いかけます。

- 日時：5/10(水)～5/29(月) 10:00～18:00
※毎週金・土曜日は10:00～20:00 ※休館日：毎週火曜日
5/27(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：国立新美術館 別館壁面
- 観覧料：無料

先行展示プログラム



撮影：Tomohiro Kubota

うらあやか《〈欲望〉について(生きることについての憶測:ホイアン(ベトナム)の犬の場合)》

野良犬、あるいは、うらあやかに引っ張られながら、ベトナム・ホイアンの街を歩きます。異なるものに出会うことによって駆動される〈移動すること=生きること〉の連鎖的欲望システムを可視化した、2台のモニターを用いた映像インスタレーション。

- 日時：5/10(水)～5/29(月) 10:00～18:00
※毎週金・土曜日は10:00～20:00 ※休館日：毎週火曜日
5/27(土) 10:00～22:00、5/28(日) 10:00～18:00
- 場所：国立新美術館 地下1階
- 観覧料：無料

先行展示プログラム



しばたみづき《Make As Like A Pot》2016年
セナールの森/フランス

しばたみづき《つぼなんかをつくる》

人と自然との関係への関心が高まる昨今、しばたみづきは一貫して、自然の中の大いなる流れを捉えようと制作を続けてきました。今回、国立新美術館の敷地内で採取した土や水を主な素材に、館内の屋上庭園に生える竹林とコラボレーションしたインスタレーションを制作します。会期初日から制作を始め、最終日まで継続しますが、これはしばたが素材や周囲の環境との関係を構築していく過程であり、六本木という都会の只中で自然との繋がりを見出そうとする挑戦そのものを作品として提示する試みです。

- 日時：5/10(水)～5/29(月) 10:00～18:00
※毎週金・土曜日は10:00～20:00 ※休館日：毎週火曜日
5/27(土) 10:00～22:00、5/28(日) 10:00～18:00
※六本木アートナイト当日を含む会期中に制作パフォーマンスを開催します。日時の詳細は国立新美術館のウェブサイトやSNSにて掲載予定。
- 場所：国立新美術館 3階屋上庭園(アトライブラリー横 竹林)
- 観覧料：無料

先行展示プログラム



「NACT View 02 築地のはら ねずみっけ」
フライヤー画像 © Nohara Tsukiji

築地のはら《ねずみっけ》

国立新美術館では、パブリックスペースを活用した「NACT View」シリーズの第2回として、2次元と3次元の融合をテーマに新しい切り口の作品を制作するアニメーション作家・築地のはらによるプロジェクトマッピングとARアニメーションの展示「ねずみっけ」を開催しています。アートナイトの期間中は特別バージョンのアニメーションを展示します。

- 日時：5/10(水)～5/29(月) 10:00～18:00
※毎週金・土曜日は10:00～20:00 ※休館日：毎週火曜日
5/27(土) 10:00～22:00、5/28(日) 10:00～18:00
- 場所：国立新美術館 1階エントランスロビーほか
- 観覧料：無料

先行展示プログラム



フランソワ・ジェラール《アモルとプシュケ》、または《アモルの最初のキスを受けるプシュケ》
1798年、油彩／カンヴァス、186 x 132 cm
Photo © RMN-Grand Palais (musée du Louvre)
/ Tony Querrec / distributed by AMF-DNP.com

ルーヴル美術館展 愛を描く

人間の根源的な感情である「愛」は、古代以来、西洋美術の根幹をなすテーマの一つでした。本展では、ギリシア・ローマ神話の神々の愛、現実に生きる人間たちの愛、キリスト教の愛など、様々な愛がどのように表現されてきたのか、ルーヴル美術館の膨大なコレクションから精選された73点の絵画を通して浮き彫りにします。16世紀から19世紀半ばまで、ヨーロッパ各国の主要画家による愛の表現の諸相をお楽しみください。

- 日時：3/1(水)～6/12(月) 10:00～18:00(最終入場17:30)
※毎週金・土曜日は10:00～20:00(最終入場19:30) ※休館日：毎週火曜日 ただし、5/2(火)は開館。
- 場所：国立新美術館 企画展示室1E
- 観覧料：一般 2,100円、大学生 1,400円、高校生 1,000円



<公募展> 第118回 太平洋展

- 日時：5/17(水)～5/29(月) 10:00～18:00(最終入場17:30)
※休館日：毎週火曜日
※最終日5/29(月)は15:00(最終入場14:30)まで
- 場所：国立新美術館 公募展示室 1A,1B,1C,1D
- 観覧料：一般・大学生700円、高校生以下・障害者手帳をお持ちの方及び付添者1名まで無料
※5/27(土)～5/28(日)の期間中は、一般・大学生300円

同時開催プログラム



<公募展> 75回記念 三軌展

- 日時：5/17(水)～5/29(月) 10:00～18:00(最終入場17:30)
※休館日：毎週火曜日
※最終日5/29(月)は15:00(最終入場14:30)まで
- 場所：国立新美術館 公募展示室 2A,2B,2C
- 観覧料：一般700円、大学生以下・障害者手帳をお持ちの方及び付添者1名まで無料
※5/27(土)～5/28(日)の期間中は、一般・大学生300円

同時開催プログラム



<公募展> 第13回 世界平和芸術家協会展

- 日時：5/19(金)～5/28(日) 10:00～18:00(最終入場17:30)
※休館日：毎週火曜日
- 場所：国立新美術館 公募展示室 2D
- 観覧料：無料

同時開催プログラム



<公募展> 第45回 日本新工芸展

- 日時：5/17(水)～5/28(日) 10:00～18:00(最終入場17:30)
※休館日：毎週火曜日
- 場所：国立新美術館 公募展示室3A,3B
- 観覧料：一般 700円、大学・高校生・65歳以上 400円、中学生以下・障害者手帳をお持ちの方及び付添者1名まで無料
※5/27(土)～5/28(日)の期間中は、一般300円・大学・高校生・65歳以上は200円

同時開催プログラム

■ 六本木交差点/六本木各所エリア



雪だるまのヌケガラ

長谷川仁《六本木のカタガタ》

六本木の街を視察した際に、交差点のプランターを植え替える小学生がいることを知りました。広く思われているであろうステレオタイプな六本木のイメージとは異なる、家族、商店街、生活といった六本木の姿に思い至りました。この作品はそこにあるはずだけどすぐには見えてこない「地域」と交差点を往来するする人々の表層的な「日常」を観察することを通し、本当の六本木が見えてくるのではないだろうかという思いからスタートしています。

- 日時：5/27日(土) 10:00～5/28(日)18:00
- 場所：六本木交差点プランター
- 参加料：無料



“SEEK and FIND” イメージ

Keeenu 《SEEK and FIND》

どんな生き物も、日々何かを探し求めながら生きています。それらは簡単に手に入れられるものもあれば、なかなか見つからないものもあります。また、個々が持つストーリーが交差し、混ざり合うことで、思いもよぬ場所や様々な形で現れることもあります。しかし、常に意識して探していなければ、それに気づくことはできません。約40メートルの壁面に描かれるこの作品には、その前を通るたびに新たな気づきや、あなたが探していたものに出会えるきっかけを与えたいという想いが込められています。

- 日時：5/27日(土) 10:00～5/28(日)18:00
- 場所：ロアビル仮囲い
- 参加料：無料



小海の半島の旧家の大海

2017

撮影 木奥恵三

©Takahiro Iwasaki, Courtesy of ANOMALY

岩崎貴宏《雨の鏡》

戦後の焼け野原から復興、高度経済成長、バブル景気と崩壊、そして失われた30年。そのスクラップ&ビルドによって変化し続ける象徴的な都市、六本木。再開発を待つ空き地の中、五月雨が作る澱みは、移ろいゆく時を映し込み、彼岸と此岸を繋いでいるかのようです。束の間に出来たこの空き地も、水たまりも、眩い光の塔さえもいずれは朝露のごとく消えゆくでしょう。この儂い光景は、人の記憶の中で臍に生き続けるのかもかもしれません。

- 日時：5/27日(土) 10:00～5/28(日)18:00
- 場所：第1レーヌビル
- 参加料：無料

林千歩《平行世界》

この世界は、想像しつづけることで存在しています。本展の2つの映像作品は、それぞれ、地球が人間視点による無数の事実を語る《もうないかもしれないよ》と、生命の生と死が愉快な悪夢のように循環する《踊るブッダの誕生日》です。あらゆる生命は、同じ世界に存在しているようで、異なる世界を生きています。本展は、無数の事実と生と死という掛け合わせから、見えるものと見えざるものが繋がる世界を立ち上げます。



《もうないかもしれないよ》

2014年、Video 5:12 min

2つの映像作品

《もうないかもしれないよ》

窓の外を見るのは、どこかの、誰かの日常の視点。回転する地球が、さまざまな人間の思考を混ぜこぜにした、ひとり語りをはじめます。地球の歴史、日常のトラウマ、災害の記憶と噂話。月とミサイルが周回し、犬の首が吹き飛ぶと、地球が呟きます。「わたしは……人間以外のすごい生き物になりたいです」。そして、犬の体に人間の顔がくっ付き、地球が涙をこぼします。この世界には、無数の事実が飛び交っていて、現実では叶えられない夢も叶えることができるのです。

《踊るブッダの誕生日》

今を生きるというのは、生と死のどちらに近い感覚なのでしょうか。赤い幕が開き、老人の登場により物語がはじまります。目を覚ました螺髻(らぼつ)たちは、大仏の腹部の裂け目(生命の誕生の隠喩)に気がつき、そこに宿る命の鼓動に気がつきます。光り輝く美仏の生誕をきっかけに世界が狂いはじめ、戸惑う螺髻たちですが、美仏の導きにより、生命誕生の祝福のダンスを共に踊ります。しかし、美仏は唐突に天へと召され、この荒唐無稽で夢のような物語は、赤い幕の開閉とともに繰り返されつづけていくのです。

- 日時：5/27(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：イグノポール1階
- 参加料：無料



《踊るブッダの誕生日》

2014年、Video 6:16 min

■ 六本木交差点/六本木各所エリア



Mrs. Yuki
《a》
2023年
キリン頭骨、アルミミラー
240×260cm

Mrs. Yuki 《ひとつのかたち》

向かい合っている頭骨は、ふたつでありながら、もとはひとつ。

蛇は、何度も脱皮を繰り返し、地球に脱ぎ捨てながら、全身を使って地面を前進する。

花の一部を複製し、連続させた花の輪は、万華鏡のように独立した世界へ導く。

本展は、頭骨とミラーを組み合わせた作品と蛇の抜け殻で描いた絵画、花をモチーフにしたデジタルカラージュの3つのシリーズから構成されている。私たちは、生命の生きた痕跡を切り抜き美術の領域へと誘う。

- 日時：5/27(土) 10:00～5/28(日) 18:00
- 場所：イグノポール2階
- 参加料：無料



《妻有双六》
2021年
撮影木奥恵三

原倫太郎 + 原游 《六本木双六》

六本木の公園。近年、都市にある公園はどれも同じステレオタイプな遊具が多く、ユニークな体験をすることが難しいのではないのでしょうか。今回の作品はアートナイト期間中限定で、都市や生き物をテーマに、様々な世代の来訪者が遊べる参加型の巨大双六(すごろく)場を作ります。卓球やバスケットなど、プレイヤーはマスの指示に従って、コミュニケーションを取りながらゴールを目指します。「公園」と呼ばれる場所に行った、そういう記憶を皆さんに持ってもらう作品です。

- 日時：5/27日(土) 10:00～5/28(日)18:00
- 場所：六本木西公園
- 参加料：無料



佐藤圭一 《nutty nutty》

アイデアはいつも情景として頭の中に現れます。その情景を造形上の問題を解決しながら、設定に合わせて忠実に再現するのが私の製作です。この作品は大きさが人の身長程の「イー顔」をした彫刻5体がコロコロ転がっている情景です。顔を無くしかけた私たちの街では「イー顔」に出会う事が人生の大きな目的の一つにもなっているのでしょうか？ 作者の手を離れた「イー顔」達が勝手にノビノビと街の中で転がっている姿を、憧れにも似た気持ちで眺めたいと思います。

- 日時：5/27日(土) 10:00～5/28(日)18:00
- 場所：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 参加料：無料

オープンコール・プロジェクト採択作品



原嶋剛慎 《DINOSAUR KING》

六本木で見られる馴染んだ生き物とは、鳩かカラスかもしくはせいぜいネズミではないのでしょうか？ もし猿やタヌキなどの普段見慣れない動物を都心で目にしたらあなたならどうしますか？

それがもし現代では見るのが出来ない恐竜だとしたならば・・・。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 参加料：無料

オープンコール・プロジェクト採択作品

■ 六本木交差点/六本木各所エリア



西尾美也《カラダひとつ：人間の家[スカート]》2014年
展示風景：「六本木アートナイト2014」2014年／
六本木ヒルズアリーナ／東京
撮影：Koji Shimamura

西尾美也＋東京藝術大学学生《もうひとつの3拠点：三河台公園》

装いとコミュニケーションをテーマに、2014年にメインプログラムを、2019年に街なかプログラムを手がけた西尾が、今回はさらに地域から学び、地域の方と共に生み出す「共有空間」を作品として提示します。3拠点の一つ目は、三河台公園。本番には、共有空間を象徴する衣環境が創造され、来場者を招き入れる場となります。

- 日時：5/27(土)～5/28(日) 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：三河台公園
- 参加料：無料



西尾美也《着がえる公園》2019年
展示風景：「六本木アートナイト2019」／三河台公園／東京

西尾美也＋東京藝術大学学生《もうひとつの3拠点：六本木中学校》

3拠点の二つ目は、歴史が息づく六本木中学校。生徒たちとここならではの表現を探ります。

- 日時：5/27(土)～5/28(日) 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木中学校
- 参加料：無料



西尾研究室「DATSUEBA奈良」におけるワークショップの様子、2022年 撮影：前川俊介

西尾美也＋東京藝術大学学生《もうひとつの3拠点：西尾研究室／DATSUEBA六本木》

3拠点の三つ目は、六本木中学校の向かいに開く西尾研究室。中学生を交え、東京藝術大学の学生たちと、4月からここで議論・制作をしています。

- 日時：5/27(土)～5/28(日) 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：矢口ビル1階
- 参加料：無料

■ 六本木商店街



スマート街路灯展覧会

六本木商店街振興組合が設置しているスマート街路灯のデジタルサイネージを使って、六本木フォトコンテストや六本木デザイナーズフラッグ・コンテストの優秀作品を掲載展示いたします。

- 日時：5/26(金)～5/28(日) 06:00～26:00
- 場所：六本木交差点街路灯
- 参加料：無料

先行展示プログラム



©Mitsuki Naka

ナカミツキ《NEW MIX》

ナカミツキは、音楽についての考察が人を深く知ることに繋がると考え、モチーフは躍動感のある楽器と衝動的に動く手足を描いています。アートナイトでは、多種の楽器を人に例え、重なり、共鳴、交差を描き、文化都市として発展する六本木の街の様子や街の人々のコミュニケーションを作品を通して見るすることができます。

- 日程：5/27(土)
- 場所：詳細はウェブサイトに掲載予定
- 参加料：無料

先行展示プログラム

■ インクルーシブ・アート・プログラム



©Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd.
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro

六本木アートナイトをさまざまな人たちともに巡る鑑賞ツアーを開催します。参加者同士対話しながら、作品鑑賞を楽しみましょう。

企画協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木アートナイト会場各所／オンライン
- 参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細は、公式ウェブサイトにて告知します。
- 定員：10名程度

■ 外国語ガイドツアー



写真：越間 有紀子

アートで自分の街を再発見しよう！

海外からお越しの方や日本にお住まいの異なる文化をお持ちの方を対象に、英語を用いた作品鑑賞ツアーを実施します。コロナ禍で東京や国際色豊かな六本木をもうひとつの故郷としている方も多くいることでしょう。ツアーでは、自分のルーツや思い出を参加者と共有し、さまざまな視点を持ち寄りながら、作品や街について対話していきます。作品をより深く味わいながら、今暮らしている場所を再考していくきっかけをつくります。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木アートナイト会場各所
- 参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細は、公式ウェブサイトにて告知します。
- 定員：15名程度

■ 六本木アートナイト・デジタル



Suga Takuya《アフォーダンス》

パースデイとケーキを巡るアニメーションです。空を飛ぶパースデイプレゼント、時計仕掛けのケーキ、エレベーターの中で待ち続けるパースデイケーキ、ストロベリーを甘くさせる音楽、太陽になったストロベリー、惑星がのったケーキなどメニューは盛りだくさんです。想像力で色々なパースデイとケーキを味わってもらえたら幸いです！

- 公開日：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight
- 参加料：無料



志村翔太《新しい世界》

志村翔太《新しい世界》

分断の時代に損なわれていた東京の「うるささ」と思い出す度に形を変えて不規則に混ざり合う街の記憶を、モーフィング・コラージュ表現を用いて継ぎ接ぎしました。心身が錆び付いてしまっていた孤独な暮らしの中で在るものは変わり、或るものは留まり、境界線で結んだ過去の情景と今ここに有る都市の風景が新しい世界を織り成していきます。

- 公開日：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight
- 参加料：無料

■ 六本木アートナイト2023 開催概要

- 正式名称:** 六本木アートナイト2023
- 日時:** 2023(令和5)年5月27日(土) 10:00 ~ 28日(日) 18:00 ※コアタイム:5月27日(土) 18:00 ~ 28日(日) 6:00
- 開催場所:** 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
公式YouTubeチャンネル【RAN TV】: https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight
- 入場料/視聴料:** 無料(但し、一部のプログラム及び美術館企画展は有料)
- お問合せ:** 六本木アートナイト実行委員会 ハローダイヤル: 050-5541-8600 (9:00 ~ 20:00)
- 主催:** 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】
- 助成:** 令和5年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
- ウェブサイト:** <https://www.roppongiartnight.com/>
- Facebook:** <https://www.facebook.com/RoppongiArtNight/>
- Twitter:** https://twitter.com/r_artnight
- Instagram:** https://www.instagram.com/roppongi_art_night_official/
- YouTube:** https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight
- TikTok:** <https://www.tiktok.com/@roppongiartnight>

※実施内容等につきましては、諸般の事情により予告なく変更または中止する場合がございます。変更が生じる場合は、公式ウェブサイトや公式SNS等で改めてお知らせいたします。
※最新情報は順次、公式ウェブサイトや公式SNSにて発表してまいりますので、是非ご注目ください。

< 報道関係のお問い合わせ >

六本木アートナイト実行委員会 広報プロモーション事務局 (PR01.内)

担当: 三上 TEL: 03-5774-1420 FAX: 03-5774-1409

Email: RAN@one-o.com

広報協力: liil inc. 篠原礼子 Email: reiko@liil.com Cel: 090-3535-9012

● 広報用画像はこちらからダウンロードいただけます
<https://bit.ly/3YH0Hzq>